

第252回地震予知連絡会（令和8年8月28日）各機関からの提出議題

【1】気象庁

1. 地殻活動の概況

a. 地震活動

(O) 全国 M5.0 以上の地震と主な地震の発震機構

要旨：2026 年 5 月～7 月の全国の地震活動概況を報告する。

3. プレート境界の固着状態とその変化

a. 日本海溝・千島海溝周辺

(O) 2025 年 11 月からの三陸沖から岩手県沖にかけての地震活動（最大規模の地震：6 月 25 日 M7.2）

要旨：2026 年 6 月 25 日 07 時 30 分に岩手県沖の深さ 44km で M7.2 の地震が発生し、青森県階上町で震度 6 強を観測したほか、北海道から中部地方にかけて震度 6 弱～1 を観測した。また、北海道から関東地方にかけて長周期地震動階級 2～1 を観測した。この地震により、岩手県久慈港（国土交通省港湾局）で 16cm、八戸港（国土交通省港湾局）で 8 cm など青森県と岩手県の太平洋沿岸において津波を観測した。

気象庁はこの地震に対して、地震波検知から 4.7 秒後の 07 時 30 分 26.5 秒に緊急地震速報（警報）を発表した。

この地震は、発震機構（CMT 解）が西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。

今回の地震の震央周辺では、6 月 25 日以降 7 月 31 日までに震度 1 以上を観測した地震が 38 回（震度 6 強：1 回、震度 5 弱：1 回、震度 4：2 回、震度 3：5 回、震度 2：4 回、震度 1：25 回）発生するなど、地震活動は継続している。

2025 年 11 月 4 日から三陸沖でまとまった地震活動が見られるようになり、2025 年 11 月 9 日に M6.9 の地震が発生した。さらに、M6.9 の地震の北西側で 2026 年 4 月 20 日に M7.7 の地震が発生し、地震活動域がさらに北西側に広がった。この活動域の北西端で 2026 年 6 月 25 日に M7.2 の地震が発生し、その後一週間以内に M6.0 以上の地震が 2 回（6 月 28 日 M6.1（最大震度 5 弱）、7 月 1 日 M6.1（最大震度 4））発生した。

(O) 宮城県沖の地震（5 月 15 日 M6.4）

要旨：2026 年 5 月 15 日 20 時 22 分に宮城県沖の深さ 46km で M6.4（最大震度 5 弱）が発生した。

この地震は、発震機構（CMT 解）が西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。

b. 相模トラフ周辺・首都圏直下

(O) 茨城県南部の地震（6 月 16 日 M5.5）

要旨：2026 年 6 月 16 日 19 時 46 分に茨城県南部の深さ 50km で M5.5 の地震（最大震度 5 弱）が発生した。この地震は、発震機構が北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した。

(S) 千葉県北東部の地震 (6月26日 M5.8)

(O) 山梨県東部・富士五湖の地震 (6月26日 M5.6)

要旨：2026年6月26日22時28分に山梨県東部・富士五湖の深さ20kmでM5.6の地震が発生し、山梨県富士河口湖町で震度6弱を観測したほか、東北地方から中国地方にかけて震度5強～1を観測した。この地震の発震機構(CMT解)は北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートが陸のプレートに衝突することに起因して発生したと考えられる。

気象庁はこの地震に対して、最初の地震波の検知から6.6秒後の22時29分09.4秒に緊急地震速報(警報)を発表した。

(S) 東海・南関東地方の地殻変動

c. 南海トラフ・南西諸島海溝周辺

(S) 南海トラフ沿いの地震活動

(S) 東海地域から豊後水道にかけての深部低周波地震活動

(S) 南海トラフ沿いの長期的スロースリップの客観検知

(S) 東海・南関東地方の地殻変動

(S) 紀伊半島中部から東海の深部低周波地震(微動)活動と短期的ゆっくりすべり

(5月15日～5月21日)

(S) 紀伊半島北部の深部低周波地震(微動)活動と短期的ゆっくりすべり(6月13日～15日)

(S) 東海の深部低周波地震(微動)活動と短期的ゆっくりすべり(6月25日～26日)

(S) 紀伊半島西部の深部低周波地震(微動)活動と短期的ゆっくりすべり(7月20日～23日)

(S) 四国西部の深部低周波地震(微動)活動と短期的ゆっくりすべり(5月2日～23日)

(S) 四国東部の深部低周波地震(微動)活動と短期的ゆっくりすべり(5月9日～6月2日)

(S) 四国中部の深部低周波地震(微動)活動と短期的ゆっくりすべり(6月7日～23日)

(S) 四国中部及び四国西部の深部低周波地震(微動)活動と短期的ゆっくりすべり

(7月16日～23日、7月29日～)

(O) 沖縄本島近海の地震 (5月20日 M5.9)

要旨：2026年5月20日11時46分に沖縄本島近海(沖永良部島付近)の深さ50kmでM5.9の地震(最大震度5強)が発生した。この地震は、発震機構(CMT解)が北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した。

d. その他

4. その他の地殻活動等

(S) 岩手県内陸北部の地震 (5月14日 M4.8)

(S) 硫黄島近海の地震 (5月15日 M5.8)

(S) 鳥島近海の地震 (6月1日 M6.0)

(S) 和歌山県南部の地震 (5月2日 M5.8)

(S) 山口県北部の地震活動(最大規模の地震；6月16日 M3.1)

(S) 宮崎県北部平野部の地震 (7月1日 M5.1)

(S) 大隅半島東方沖の地震 (7月17日 M5.2)

(O) 「令和8年熊本地震」(最大規模の地震: 7月28日 M7.1) ※重点検討課題で報告

要旨: 2026年7月28日16時27分に熊本県熊本地方の深さ16kmでM7.1の地震(最大震度7)が発生した。この地震は地殻内で発生した。この地震の発震機構(CMT解)は北北西-南南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型である。この地震の震央周辺では、M7.1の地震発生後、活発な地震活動が継続しており、7月28日16時以降8月12日09時までに震度1以上を観測した地震が623回(震度7: 1回、震度5弱: 5回、震度4: 22回、震度3: 62回、震度2: 155回、震度1: 378回)発生している。

今回の地震活動域付近には、布田川断層帯、日奈久断層帯が存在している。今回の地震活動は日奈久断層帯の3つの区間(高野-白旗区間、日奈久区間、八代海区間)のうち、主に高野-白旗区間及び日奈久区間に沿って分布している。

気象庁は、この地震及びそれ以降に発生した一連の地震活動について、「令和8年熊本地震」(英語名: The 2026 Kumamoto Earthquake)と名称を定めた。

(S) 西表島付近の地震活動(最大規模の地震: 5月10日 M4.9)

(O) 宮古島北西沖の地震 (7月3日 M6.5)

要旨: 2026年7月3日13時04分に宮古島北西沖(久米島の西約100km)の深さ16kmでM6.5の地震(最大震度3)が発生した。この地震は、沖縄トラフ沿いで発生した陸のプレート内の地震である。発震機構(CMT解)は、北西-南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型である。

(S) 北西太平洋の地震 (7月3日 M6.0)

(S) フィリピン諸島、ミンダナオの地震 (6月8日 Mw7.7)

(S) ベネズエラ沿岸の地震 (6月25日 M7.2、Mw7.5)

(S) メキシコ、チアパス州沿岸の地震 (7月17日 Mw7.3)

【2】国土地理院

1. 地殻活動の概況

b. 地殻変動

(O) GEONETによる全国の地殻変動(水平)(3か月)

要旨: GEONETによるGNSS連続観測から求めた、最近3か月間における全国の水平方向の地殻変動を報告する。

(O) GEONETによる2期間の地殻変動ベクトルの差

要旨: 最近3か月間の水平方向の地殻変動について、1年前の同時期の水平変動ベクトルとの差を取って得られた非定常的な変動の概況を報告する。

(O) GEONETによる全国の地殻変動(水平)(1年)

要旨: GEONETによるGNSS連続観測から求めた、最近1年間における全国の水平方向の地殻変動を報告する。

(O) GNSS連続観測から推定した日本列島のひずみ変化

要旨: GNSSデータから推定した、最近1年間における日本列島のひずみ変化の概況を報告する。

2. 東北地方太平洋沖地震関連

【平成 23 年(2011 年)東北地方太平洋沖地震後の地殻変動】

(O) 地殻変動ベクトル

要旨：東北地方太平洋沖地震後における水平・上下の地殻変動について、全期間の累積変動の概況を報告する。

(O) GNSS 連続観測時系列

要旨：東北地方太平洋沖地震後の東日本における GNSS 連続観測の時系列の概況を報告する。

(O) 変位速度のプレート収束方向に関する水平勾配（北海道～関東地方）

要旨：東北地方太平洋沖地震後のプレート間の固着状況の変化について、電子基準点の変位速度のプレート収束方向に関する水平勾配によるモニタリングの概況を報告する。

【東北地方のゆっくりすべり】

(O) GNSS データから推定された東北地方のゆっくりすべり

要旨：2025 年 11 月から GNSS で観測されている東北地方のゆっくりすべりについて、概況を報告する。

3. プレート境界の固着状態とその変化

a. 日本海溝・千島海溝周辺

【2026 年 5 月 15 日に発生した宮城県沖の地震】

(O) 地殻変動ベクトルと GNSS 連続観測時系列

要旨：GNSS 連続観測で地殻変動が検出されたので、その概況を報告する。

(O) 震源断層モデル

要旨：GNSS で観測された地殻変動を基に震源断層モデルを推定したので、その概況を報告する。

【2026 年 6 月 25 日に発生した岩手県沖の地震】

(O) 地殻変動ベクトルと GNSS 連続観測時系列

要旨：GNSS 連続観測で地殻変動が検出されたので、その概況を報告する。

(O) 震源断層モデル

要旨：GNSS で観測された地殻変動を基に震源断層モデルを推定したので、その概況を報告する。

(O) 「だいち 2 号」「だいち 4 号」による SAR 干渉解析結果

要旨：だいち 2 号及びだいち 4 号のデータの解析を行ったので、その概況を報告する。

b. 相模トラフ周辺・首都圏直下

【2026 年 6 月 16 日の茨城県南部の地震】

(O) 地殻変動ベクトルと GNSS 連続観測時系列

要旨：地震前後の GNSS 連続観測の解析結果を報告する。

c. 南海トラフ・南西諸島海溝周辺

【森～掛川～御前崎間の上下変動】

(S) 電子基準点の上下変動（5 基線）

(S) 電子基準点の上下変動 GNSS 連続観測

(S) 駿河湾周辺 GNSS 連続観測時系列

(S) 東海地方の非定常地殻変動

(O) 東海地域の非定常水平地殻変動（長期的ゆっくりすべり）

要旨：2022 年初頭から静岡県西部から愛知県東部において、これまでの傾向とは異なる地殻変動を GNSS で観測したので、その概況を報告する。

(S) 紀伊半島 電子基準点の上下変動 GNSS 連続観測

(S) 南海トラフ周辺 GNSS 連続観測時系列

(S) 南海トラフ沿いの非定常地殻変動

(S) 室戸岬周辺 電子基準点の上下変動 GNSS 連続観測

4. その他の地殻活動等

(S) 1 年間の上下地殻変動

(S) 北海道太平洋岸 GNSS 連続観測時系列

【2026 年 6 月 16 日の茨城県南部の地震】

(O) 地殻変動ベクトルと GNSS 連続観測時系列

要旨： 地震前後の GNSS 連続観測の解析結果を報告する。

【2026 年 6 月 26 日の山梨県東部・富士五湖の地震】

(O) 地殻変動ベクトルと GNSS 連続観測時系列

要旨： 地震前後の GNSS 連続観測の解析結果を報告する。

(S) 関東周辺 GNSS 連続観測時系列

【令和 8 年熊本地震】 ※重点検討課題で報告

(O) 令和 8 年熊本地震(7 月 28 日 M7.1)前後の地殻変動ベクトルと GNSS 連続観測時系列

要旨： GNSS 連続観測で地殻変動が検出されたので、その概況を報告する。

(O) 令和 8 年熊本地震(7 月 28 日 M7.1)後の地殻変動ベクトルと GNSS 連続観測時系列

要旨： GNSS 連続観測で余効変動が検出されたので、その概況を報告する。

(O) 令和 8 年熊本地震(7 月 28 日 M7.1)の震源断層モデル

要旨： GNSS で観測された地殻変動を基に震源断層モデルを推定したので、その概況を報告する。

(O) 令和 8 年熊本地震(7 月 28 日 M7.1)のすべり分布モデル

要旨： GNSS で観測された地殻変動を基にすべり分布モデルを推定したので、その概況を報告する。

(O) 「だいち 2 号」及び「だいち 4 号」観測データの 3 次元解析による令和 8 年熊本地震(7 月 28 日 M7.1)に伴う地殻変動

要旨： だいち 2 号及びだいち 4 号のデータの解析を行ったので、その概況を報告する。

(O) 地震前後の DSM 差分解析で確認された表層高変位(速報) 宇城市小川町小川地区及びその周辺

要旨： 数値表層モデル (DSM) 差分解析を行ったので、その概況を報告する。

(O) 令和 8 年熊本地震前後の画像と数値表層モデルから判読された変位境界 (速報)

要旨： 空中写真画像と数値表層モデル (DSM) から変位の判読を行ったので、その概況を報告する。

(O) 「だいち 2 号」及び「だいち 4 号」の衛星画像解析による令和 8 年熊本地震に伴う変位境界

要旨： だいち 2 号及びだいち 4 号のデータの解析から変位境界の判読を行ったので、
その概況を報告する。

(O) 空中写真画像から判読された変位境界（国土地理院）との比較

要旨： だいち 2 号及びだいち 4 号のデータから判読された変位境界と、空中写真画像から判読された変位境界の比較を行ったので、その概況を報告する。

【2026 年 5 月 20 日の沖縄本島近海の地震】

(O) 地殻変動ベクトルと GNSS 連続観測時系列

要旨： 地震前後の GNSS 連続観測の解析結果を報告する。

【3】北海道大学

【4】東北大学理学研究科・災害科学国際研究所

【5】東京大学地震研究所

【6】東京科学大学

【7】名古屋大学

【8】京都大学理学研究科・防災研究所

【9】九州大学

【10】鹿児島大学

【11】統計数理研究所

3. プレート境界の固着状態とその変化

d. その他

(O) 大地震予測の時空間確率利得— 北日本太平洋プレート沈み込み帯 —

要旨：スロースリップイベント（SSE）および繰り返し相似地震（RE）は、大地震の発生に関連する応力の蓄積・解放過程を反映する現象として注目されているが、それらが大地震予測にどの程度定量的に寄与するかについては、依然として十分な検証がなされていない。

本報告では、房総沖、東北沖および北海道東方沖の沈み込み帯を対象とし、過去 20～30 年間に観測された短期的 SSE および中規模 RE を基準事象として利用する。除群処理済み地震カタログを用い、M6.5 以上の地震との時空間的な統計的関連性を評価し、SSE および RE 情報を用いた大地震予測の時空間確率利得を検証する。

この解析を通じて、沈み込み帯における SSE および RE 情報が、大地震の発生確率をどの程度向上させ得るかを定量的に明らかにすることを目指す。

4. その他の地殻活動等

(O) 2016 年 M7.3 熊本地震後の余震活動の推移と 2026 年 M7.1 熊本地震の余震活動について

※重点検討課題で報告

要旨：2016 年 4 月 14 日に発生した M7.3 熊本地震以降の約 10 年間にわたる熊本地域の余震活動

を ETAS モデルにより解析し、その活動推移の詳細を XETAS を用いて調べた。特に、ETAS の時間変換に基づく時空間座標上では、活動が北東部で相対的に静穏化する一方、南西部で相対的に活発化しており、全体として南西方向へのマイグレーションが認められることが特徴的である。さらに、2026 年 M7.1 熊本地震の発生後の余震活動についても同様の解析を行い、両地震系列の活動特性を比較検討した。

【12】防災科学技術研究所

3. プレート境界の固着状態とその変化

a. 日本海溝・千島海溝周辺

(S) 日本周辺における浅部超低周波地震活動

(S) 2026 年 6 月 25 日岩手県沖の地震による高周波エネルギー輻射量

b. 日本海溝・千島海溝周辺

(S) 2026 年 6 月 26 日山梨県東部・富士五湖の地震による高周波エネルギー輻射量

c. 南海トラフ・南西諸島海溝周辺

(S) 日本周辺における浅部超低周波地震活動

(O) 西南日本の深部低周波微動・短期的スロースリップ活動状況

要旨：短期的スロースリップイベントを伴う顕著な微動活動は、6 月 8 日～17 日に四国中部で発生した。

これら以外の主な微動活動として、5 月 2 日～8 日に四国西部で、5 月 16 日～21 日に紀伊半島南部で、5 月 18 日～26 日に四国東部で、6 月 11 日～17 日に紀伊半島中部で、7 月 30 日～8 月 7 日に四国西部から豊後水道で発生した。

4. その他の地殻活動等

(O) 令和 8 年熊本地震による高周波エネルギー輻射量 ※重点検討課題で報告

要旨：令和 8 年熊本地震後の地震活動について、地震波の高周波エネルギー輻射量の解析を行った。

平成 28 年熊本地震の最大前震後および本震後と比較すると、今回の積算高周波エネルギー輻射量は少ない。また積算輻射量は、今回と同規模の地殻内地震として平均的な値となっている。

【13】産業技術総合研究所

3. プレート境界の固着状態とその変化

c. 南海トラフ・南西諸島海溝周辺

(S) 東海・伊豆地域における地下水等観測結果（2026 年 5 月～2026 年 7 月）

(S) 紀伊半島～四国の地下水・歪観測結果（2026 年 5 月～2026 年 7 月）

(S) 東海・紀伊半島・四国における短期的スロースリップイベント（2026 年 5 月～2026 年 7 月）

4. その他の地殻活動等

(S) 近畿地域の地下水観測結果（2026 年 5 月～2026 年 7 月）

(S) 鳥取県における温泉水・地下水変化（2026 年 2～2026 年 7 月）

(O) 地表地震断層と地質構造から見た令和 8 年熊本地震 ※重点検討課題で報告

要旨：2026年7月28日に発生した令和8年熊本地震（Mj 7.1）の際には日奈久断層帯が活動したと考えられている。本報告では、日奈久断層帯の地質構造等に関する近年の調査研究の概要を述べるとともに、産総研による緊急現地調査の実施状況、その結果にもとづいた令和8年熊本地震によって生じた地表地震断層の分布・特徴について報告する。

【14】海上保安庁

2. 東北地方太平洋沖地震関連

（S）日本海溝沿いの海底地殻変動観測結果

3. プレート境界の固着状態とその変化

c. 南海トラフ・南西諸島海溝周辺

（S）南海トラフ沿いの海底地殻変動観測結果

【15】海洋研究開発機構

【16】その他の機関

記載分類

（O）口頭報告、（S）資料提出のみ

1. 地殻活動の概況

a. 地震活動

b. 地殻変動

2. 東北地方太平洋沖地震関連

3. プレート境界の固着状態とその変化

a. 日本海溝・千島海溝周辺

b. 相模トラフ周辺・首都圏直下

c. 南海トラフ・南西諸島海溝周辺

d. その他

4. その他の地殻活動等

5. 地殻活動の予測実験